

<フィリピン事業 (マニラ・路上) > 「生きていくうえで必要な知識を学ぶ」



ICAN マニラ事務所
西尾 絵里
～プロフィール～
大阪大学外国語学部
でフィリピン語を専
攻。現在はフィリピン
大学へ留学しながら、
2019年8月より ICAN
マニラ事務所にてイ
ンターン。

ある日のスケジュール

9:00 メールチェック
10:00 フェアトレード
商品在庫管理
13:00 パヤタス訪問
16:00 フィリピン予算
申請作成
17:00 パザーの準備
18:00 帰宅

大きなゴミの山があるマニラ首都圏ケソン市のパヤタスで、9月から「サバイタヨ」の活動が始まりました。「サバイタヨ」とはフィリピン語で「一緒にやろう!」という意味があり、元々は、危険なゴミ山で遊ぶ子どもたちの保護を目的に2002年に始まった活動ですが、約10年間の活動を経て、ニーズの変化により、活動を終えていました。現在、この地域のゴミ処分場は閉鎖されているものの、急激な経済成長により貧困の格差は広がり続け、厳しい生活が続いており、改めて再開することになりました。

9月は2回活動が行われ、100人以上の子どもたちが参加しました。塗り絵やローマ字の練習をした子どもたちは、皆真剣に取り組み、書き終わった後には嬉しそうに見せてくれました。他には、伝言ゲームやジェスチャーゲームをしたり、イラストに自分の将来の夢を描いて共有する場面もありました。子どもたちの将来の夢は、お医者さん、警察官、兵士等があり、理由は「誰かを助けたいから」というものがほとんどで、子どもたちの優しさが垣間見られました。また、年長の子どもたちはボランティアとして、活動内容を考えて自ら実行してくれたり、リーダーシップをとって、自主的に活動に参加してくれます。活動の際には、栄養価の高い食事事も提供して、栄養状態の改善も目指しています。

過去のサバイタヨに参加していた子どもたちの中には、現在ソーシャルワーカーとして海外で働いていたり、アイキャンの活動に感化され、大学を出てアイキャンスタッフとして働いている職員もいます。サバイタヨの目的は、子どもたちが生きていくうえで必要な知識を学ぶことです。そのため、活動では勉強だけでなく遊びを通して、自己理解や人間関係の構築も行っています。また、歯の磨き方や手の洗い方等の衛生教育や、



「ありがとう」と伝えることの大切さや礼儀等、普段の生活の中で大切なことも教えています。

事業を担当するフィリピン人スタッフは、「沢山の子どもたちが活動に参加するため、大変なこともあります。子どもたちが真剣に学んでいる姿や、楽しそうな笑顔を見ると、頑張れます。」と語ってくれました。今後も多くの子どもたちの将来の可能性を広げることが出来るよう、私もアイキャンスタッフの一員として精一杯尽力しようと思います。

ジブチ事業

9月23・24日/アリアデ・ホルホル(ジブチ)

今年度3回目となる子ども議会



ジブチにあるアリアデ・ホルホルの2つの難民キャンプにおいて、合計61人の子どもたちによる子ども議会が行われました。ホルホルキャンプでは、「自尊心」が議題にあがりました。参加したイクラちゃんは「他者との関わり合いが、自尊心に影響を与えることを学んだ。同時に、3つの国からの難民が暮らすこのキャンプで、出身国や言語が異なることを理由に差別をしてはいけないと感じた。」と感想を述べました。

ボランティア・寄付活動推進事業

9月/名古屋・東京

2つのイベントに出展



9月には2つのイベントがありました。名古屋では聖霊高等学校の文化祭でフェアトレード商品が販売され、東京ではグローバルフェスタでフェアトレード商品とフィリピン料理が販売されました。どちらのイベントもボランティアスタッフが活躍しました。「イベントを通してフェアトレード商品を作っているお母さんたちの事を伝えることができた。知ってくれる人がもっと増えればいいと思う。」と話してくれました。

イエメン事業

9月/タイズ(イエメン)

食糧提供後の事後調査をしました



9月、イエメン南西部にあるタイズ州において、食糧提供後の事後調査を実施しました。アイキャンでは7月から8月にかけて延べ6,880世帯への食糧提供をしました。事後調査では、提供した食糧に問題はなかったか、食糧はどのように消費されたのか等、裨益者から幅広い情報を聞き取りました。ここで集められた裨益者からの意見は今後の事業運営に役立てていきます。

能力強化事業(スタディーツアー) 9月4~8日/マニラ(フィリピン)

国士館大学の学生がスタディーツアーに参加



国士館大学の生徒12名がフィリピンスタディーツアーに参加し、アイキャンの事業地であるパヤタスや、路上教育を実施しているエスコルタを訪問しました。また、今年4月に2階の建設が完了した子どもの家へ宿泊し、子どもたちとの交流を深めました。参加者からは、「友達、家族、知り合いに、見たものや聞いたもの、感じた事を話し、文字にしたい。」「フィリピンの人々のやさしさに触れた。」等の感想が聞かれました。